

京都でみることができる蚊(2)

前回の第131号では、**キンパナガハシカ**を紹介しました。今回は、その第2弾で2種類紹介しますが、いずれもヒトに被害を及ぼすことはありません。



ボウフラを採集した竹林と採集風景

フタクロホシチビカ

フタクロホシチビカはチビカ族チビカ属の蚊で、みなさんがよく見るヒトスジシマカ（ヤブカ）と比べて、体長がヒトスジシマカの3分の1ほどの約2mmと小さいため、このような名前が付けられており、日本には8種類ほどの仲間がいます。

小さいですが、ちゃんと血を吸うための吻（フン）を持ち、りっぱな蚊の形をしています。この吻でヒトではなく、カエルなど両生類の血を吸います。

フタクロホシという名は、両方の翅（ハネ）の付け根近くに黒い斑点を持っていることから名付けられました。一度見たら忘れることはないですが、小さいので斑点を目で見るとは難しいですね。

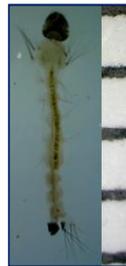
フタクロホシチビカは、幼虫で越冬します。ちなみに、ヒトスジシマカは卵、アカイエカは成虫で越冬します。



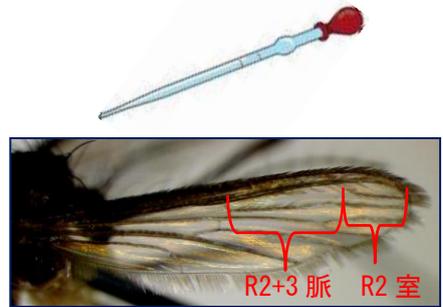
フタクロホシチビカ（♂）



特徴である黒い斑点



ボウフラ



R2+3 脈 > R2 室（これも特徴です）
キンパナガハシカとは逆です

ハマダラナガスネカ

ハマダラナガスネカは、ナミカ族ナガスネカ属の蚊で、日本ではこの1種類しか確認されていません。体長は、ヒトスジシマカと同じくらい大きさですが、少し大きい翅を持っています。この翅にはマダラの模様があることから、ハマダラ（翅マダラ）という名が付いています。

また、後ろ足の脛（スネ）のように見える部分のバランスが、他の蚊に比べて大きい（長い）ため、ナガスネカ（長脛蚊）と呼ばれています。

その他に、吻には白い帯と白い斑点があるのも特徴です。

初めてこの蚊を見たとき、毛の多さと体色のコントラストに強烈なインパクトを受けました。ハマダラナガスネカはおそらく、フタクロホシチビカと同じようにカエルなどの血を吸っていると考えられており、ヒトの血は吸わないようです。この蚊も幼虫で越冬します。



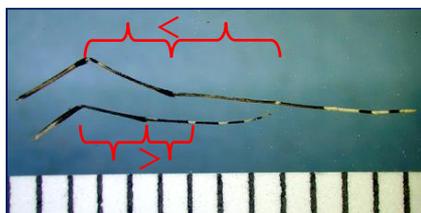
ハマダラナガスネカ（♀）



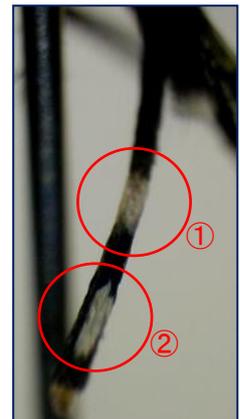
ボウフラ
（抜け殻）



マダラ模様の翅



後ろ足（ハマダラナガスネカ）
（ヒトスジシマカ）



吻の白帯①
白斑②